

建設業界の技術伝承における 労働組合の役割

山崎 雅夫

(法政大学特任研究員)

本研究の目的は、建設業界の技術伝承における労働組合の役割について考察することである。理由は3つある。第1に、建設業界においても技術伝承が喫緊の課題となっているからである。第2に、建設業界において技術伝承を円滑に進めるには一定の仕組みが必要であり、その実現のために労働組合が果たすべき役割は大きいと考えるからである。第3に、労働組合が本来持っていた「共済」と「人材育成」の機能に着目すると、技術伝承の分野で労働組合の位置づけを明確にすることは意義があると考えられるからである。問題に取り組む上で、建設業界の労働組合に関して先行研究のレビューを行った。その結果、技術伝承における労働組合の役割についての研究は少なかった。これを踏まえ、

労働組合の役割に関して15の労働組合（建設業界9組織、他産業6組織）にインタビュー調査を行った。インタビュー調査から分かった建設業界の労働組合の実態は、他の産業に比べて活発でないことである。課題は、労働組合への理解や活動に取り組む余力がないところにある。しかし、他産業を見ていくと、共済に加えてこれまで以上に人材育成への取り組みに力を入れ始めているのが窺える。他産業でみられた取り組みは、職場や企業を越えた学習の場の提供である。これは全国建設労働組合総連合（全建総連）にも見受けられた。今後の建設業界の技術伝承における労働組合の役割は、共済機能だけでなく技術に直接関連する人材育成機能に着目した、場の提供を行うことだと考える。

やまさき・まさお 法政大学大学院職業能力開発研究所特任研究員。主な著作に「技術者直観形成のための5つの方法による循環」『キャリアデザイン研究』日本キャリアデザイン学会（2015年）。人材育成論・人的資源管理論・労使関係論専攻。